血液-220

再発又は難治性の多発性骨髄腫

【1-2コース目】ﾀﾞﾗｷｭｰﾛ+ｶｲﾌﾟﾛﾘｽ+ﾃﾞｷｻﾒﾀｿﾞﾝ(DKd)併用療法　患者プロトコール

催吐リスク
軽度
放射線併用なし

投与プロトコール 1コース:28日間　各コース1回 《開始時基準　PS:0-2、年齢:18歳以上》		投与量	投与日	投与時間	備考
1コース目					
ルートKeep	5%ﾌﾞﾄﾞｳ糖液	—	day1,2,8,9,15,16	—	
プレメディ（内服）	モンテルカスト10mg		day1,8,15,22	※1	※1 ﾌﾟﾚﾒﾃﾞｨ及びﾚﾅﾃﾞｯｸｽは、ｶｲﾌﾟﾛﾘｽ投与30分前に投与 （day22はﾀﾞﾗｷｭｰﾛ投与の1時間前に投与）
	抗ヒスタミン剤＋解熱鎮痛剤（ｱｾﾄｱﾐﾉﾌｪﾝ1000mg）		day1,8,15,22		
内服（用量注意）	レナデックス錠 □ 75歳以下:　20mg/body	mg/日	day1,2,8,9, 15,16,22,23	※1	
	□ 75歳超:　20mg/body	mg/日	day1,2,8,15,22		
	8mg/body	mg/日	day9,16		
レナデックス投与終了後30分経過してカイプロリスの投与を開始する ≪day22は、プレメディおよびレナデックス内服後1時間経過してダラキューロの投与を開始する≫					
①	カイプロリス:20mg/㎡	mg	day1,2	30分	
	カイプロリス:56mg/㎡	mg	day8,9,15,16		
	10mg/Vあたり注射用水5mL、40mg/Vあたり注射用水20mLに溶解（2mg/mL）し、 必要量を5%ブドウ糖液100mLで希釈				
1コースday1はカイプロリス投与後、1時間経過してからダラキューロ投与を行う					
②	ダラキューロ:1800mg/body	mg	day1,8,15,22	皮下注射	3～5分かけて投与
2コース目					
ルートKeep	5%ﾌﾞﾄﾞｳ糖液	—	day1,2,8,9,15,16	—	
プレメディ（内服）	モンテルカスト10mg		day1,8,15,22	※1	※1 ﾌﾟﾚﾒﾃﾞｨ及びﾚﾅﾃﾞｯｸｽは、ｶｲﾌﾟﾛﾘｽ投与30分前に投与 （day22はﾀﾞﾗｷｭｰﾛ投与の1時間前に投与）
	抗ヒスタミン剤＋解熱鎮痛剤（ｱｾﾄｱﾐﾉﾌｪﾝ1000mg）		day1,8,15,22		
内服（用量注意）	レナデックス錠 □75歳以下:　20mg/body	mg/日	day1,2,8,9, 15,16,22,23	※1	
	□75歳超　20mg/body	mg/日	day1,8,15,22		
レナデックス投与終了後30分経過してカイプロリスの投与を開始する ≪day22は、プレメディおよびレナデックス内服後1時間経過してダラキューロの投与を開始する≫					
①	カイプロリス:56mg/㎡	mg	day1,2,8,9,15,16	30分	
	10mg/Vあたり注射用水5mL、40mg/Vあたり注射用水20mLに溶解（2mg/mL）し、 必要量を5%ブドウ糖液100mLで希釈				
②	ダラキューロ:1800mg/body	mg	day1,8,15,22	皮下注射	3～5分かけて投与

◆レナデックス内服の代替としてデカドロン注の投与も可。投与量は注射内服に関わらず同じ用量で投与を行う。
デカドロン注の投与量は、経口投与量と近似する用量とし、30分かけて点滴静注する。（例:レナデックス20mg≒デカドロン注19.8mg）

◆カイプロリスは体表面積が2.2㎡を超える患者では、体表面積2.2㎡として投与量を算出する。

◆ダラキューロによるinfusion reactionを軽減させるために、投与開始1～3時間前に副腎皮質ホルモン、解熱鎮痛剤及び抗ヒスタミン剤を投与すること。
また、遅発性のinfusion reactionを軽減させるために、必要に応じてダラキューロ投与後に副腎皮質ホルモン等を投与すること 。

◆慢性閉塞性肺疾患若しくは気管支喘息のある患者又はそれらの既往歴のある患者では、ダラキューロ投与後に遅発性を含む気管支痙攣の発現リスクが高くなるおそれがある。
ダラキューロの投与後処置として気管支拡張薬及び吸入ステロイド薬の投与を考慮すること。

佐賀大学医学部附属病院